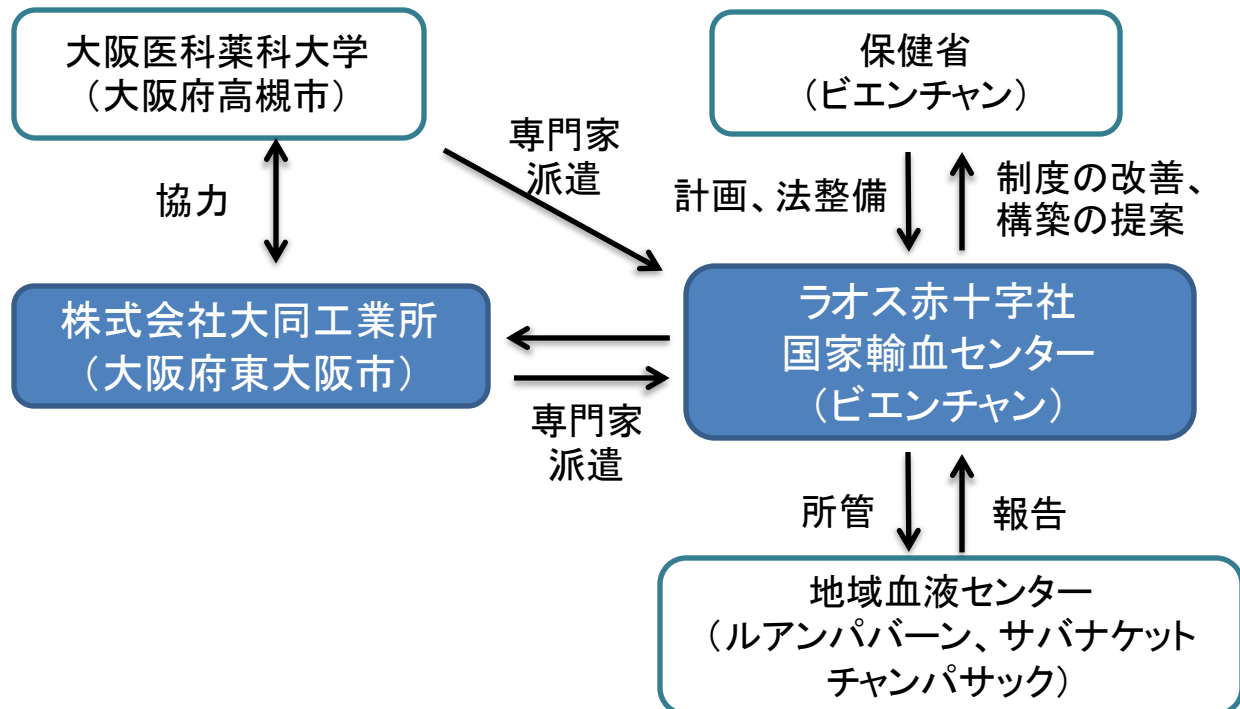


## ラオスにおける血液保管輸送体制強化支援事業

- ラオス血液事業は、5000ユニット(1995年)の状態から60,020ユニット(2020年)に増加した。WHOの推奨する人口比2% (14万ユニット)達成に向け、血液コールドチェーン体制の強化を要する。
- ラオス赤十字社国家輸血センターは、2024年に血液事業品質管理体制の国際標準化(AABB認証取得)を目指している。規格要求事項にある適格性確認(Qualification)を研修すると共に、血液製剤の適正使用研修を実施し、血液の需給バランスを取り、安全な血液製剤が輸血患者に届けられる体制を構築する。
- 海外血液事業の血液供給体制支援で実績のある大同工業所と適正で安全な輸血を促進する大阪医科薬科大学が協力し、教育シンポジウムを行い、ラオス赤十字社国家輸血センターを支援する。
- 3年間の事業で血液保管輸送に関する適格性確認方法標準手順書、現地事情を考慮した輸血ガイドライン策定につなげ、ラオス血液事業の発展・拡大と同時に日本式医療技術がデファクトスタンダードとなる市場を形成する。



＜研修スケジュール予定＞

6月 専門家派遣(4名)

- ・ルアンパバーン血液センター現状調査
- ・品質管理体制強化研修

9～11月 専門家派遣(4名)、オンライン研修(1名)

- ・品質管理体制強化研修
- ・血液製剤の適正使用に関する研修

12月 専門家派遣(5名)

- 品質管理体制整備、血液保管・輸送、血液製剤の適正使用に関する研修、シンポジウム